

2017年度 環境活動レポート

対象期間： 2017年5月21日～2018年5月20日
発行日： 2018年11月7日

マロール株式会社

653-0037 兵庫県 神戸市長田区大橋町 2丁目1番34号



エコアクション21[®]
認証番号 0000716

組織概要	2
I. 事業所名、及び代表者名	2
II. 所在地	2
III. 環境管理責任者及び担当者連絡先	2
IV. 事業の内容	2
V. 事業の規模	2
対象範囲《認証・登録範囲》	3
I. 認証・登録番号 0000716	3
II. 認証・登録事業者	3
III. 対象事業活動	3
IV. 対象事業所	3
V. 対象従業員	3
VI. 対象サイトの概略	3
VII. 実施体制	4
環境方針	5
環境目標（2017年度）	6
環境活動計画	7
環境目標の実績、環境活動計画の取組結果と その評価、次年度取組内容	8
I. 二酸化炭素排出量削減	8
II. 廃棄物排出量の削減	9
III. 上水使用量の削減	10
IV. コピー用紙使用量の削減	10
V. 化学物質の管理100%達成	11
VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成	11
VII. 環境配慮製品の拡販	12
環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	13
I. 適用される主な環境関連法規制等	13
II. 法令違反、訴訟等の有無	13
代表者による全体評価と見直しの結果	14
I. 全体評価	14
II. 見直しの結果	14
2018年度目標	15
2018年度環境レポート発行	15

組織概要

I. 事業所名、及び代表者名

マロール株式会社 代表取締役社長 兔田 朗彦

II. 所在地

本社・工場	〒653-0037	神戸市長田区大橋町2丁目1-34	従業員数 75名
東京営業所	〒101-0023	東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402	従業員数 2名
福岡営業所	〒815-0073	福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号	従業員数 5名
札幌事務所	〒003-0834	札幌市白石区北郷四条2丁目9-15 第8北海マンション502	従業員数 1名
			合計 83名
			2018年5月時

III. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 代表取締役社長 兔田 朗彦
連絡担当者 業務部総務課 大西 正
連絡先 電話：078-611-2158 Fax：078-641-5856

IV. 事業の内容

産業分類：一般機械器具製造業

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売、サービス
下記自社開発製品を製造・販売。

大型船舶向け

甲板機械（デッキクレーン、カーゴクレーン、ウインドラス、ムアリングウィンチ、トーイング
ウィンチ等）の油圧及び電気・油圧式遠隔制御装置、バルブ開閉制御装置、他。

小型船舶向け

手動油圧操舵システム、アシスト式操舵システム、電気・油圧式動力操舵システム、オートパイ
ロットシステム、エンジンリモコンシステム、姿勢制御システム、サイドスラスタ制御システ
ム、ウォータージェットコントロールシステム、エンジン制御盤、方位ディスプレイ、他。

その他開発依頼製品の設計・製作

V. 事業の規模

売上高 : 1,332百万円 (2018年5月期)
主要製品出荷量 : 148.7トン
従業員数 : 83名 (パート、アルバイト、契約社員を含む)
本社延べ床面積 : 7,309 m²

対象範囲 《認証・登録範囲》

I. 認証・登録番号 0000716

II. 認証・登録事業者

マロール株式会社

〒653-0037 神戸市長田区大橋町2丁目1-34

III. 対象事業活動

船舶関係の油圧及び電気・電子油圧式制御システム・機器の設計、製造、販売及びサービス

IV. 対象事業所

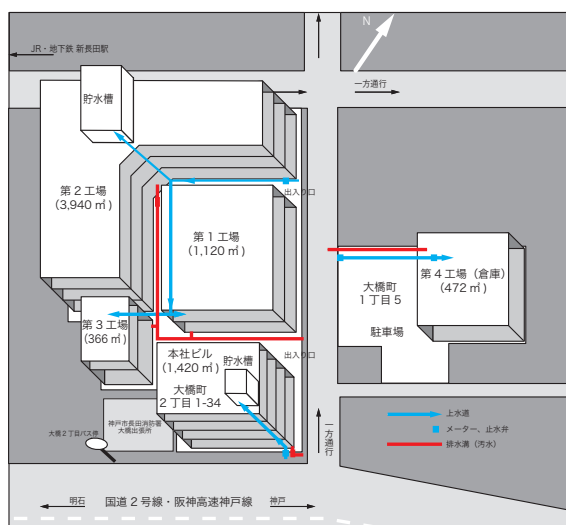
本社・工場・倉庫、東京営業所、札幌事務所、福岡営業所

V. 対象従業員

組織内で働くパート・アルバイトを含む全ての従業員。

但し、他の組織に所属する人には適用しない。

VI. 対象サイトの概略



本社・工場・倉庫：神戸市長田区大橋町2丁目1-34

札幌事務所：札幌市白石区北郷四条2丁目9-15 第8北海マンション502

東京営業所：東京都千代田区神田松永町7番地3 ヤマリビル402

福岡営業所：福岡市南区大池1丁目23-15 高崎ビル7号

延べ床面積 7.309㎡

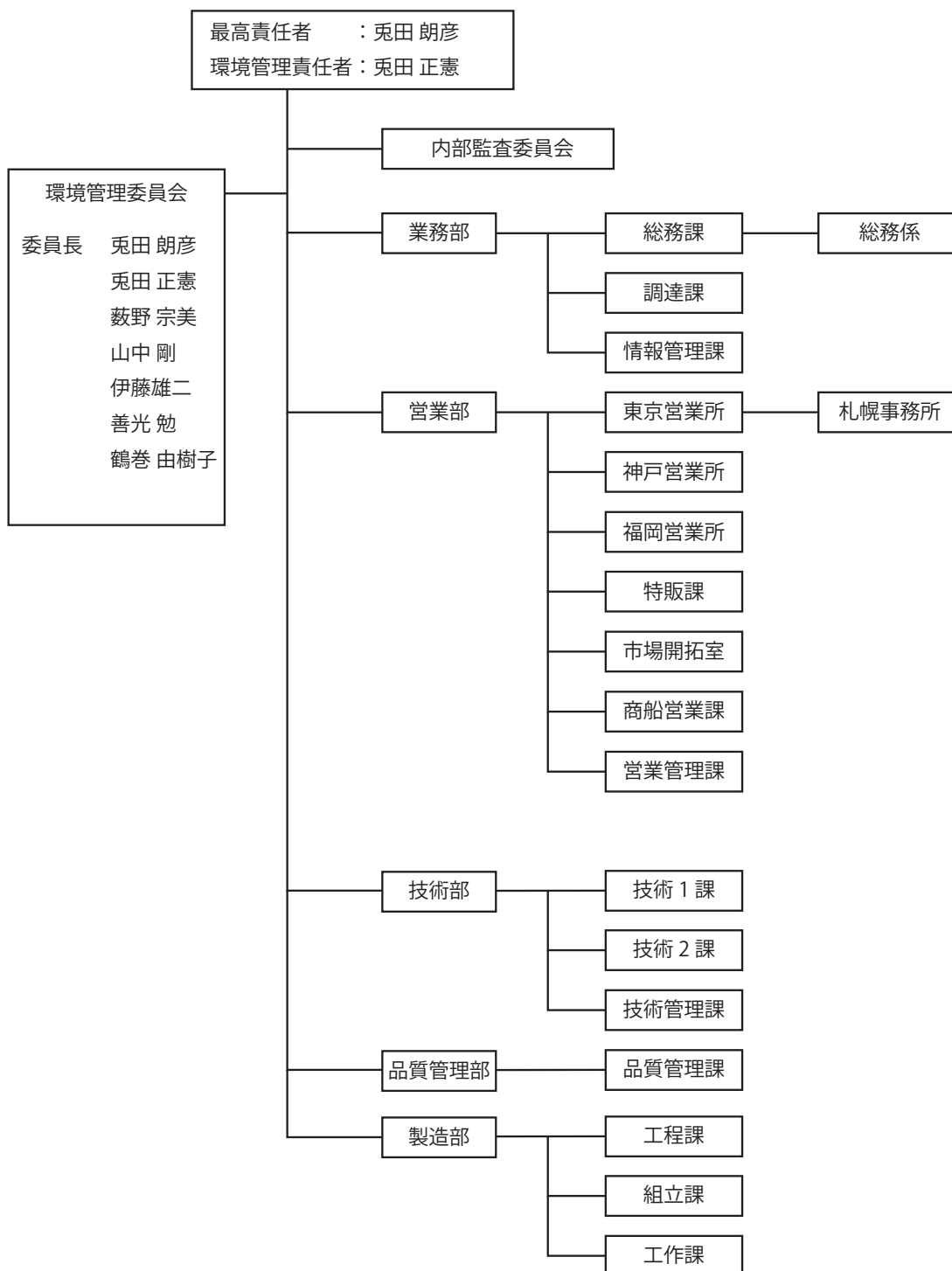
延べ床面積 60.03㎡

延べ床面積 25.48㎡

延べ床面積 66.0㎡

VII. 実施体制

マロール株式会社
環境経営システム 実施体制図
2018年5月現在



環境方針

環境理念

当社は、環境活動を経営の最重要課題の一つと位置付け、環境への取組と環境負荷の削減に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献します。

活動指針

当社は油圧・電子制御機器の設計・製造・販売の事業活動を通じて次の項目に取り組めます。

- I. 環境関連法規制、及びその他の要求事項を遵守します。
- II. エコアクション21環境経営システムを構築・運用し、継続的改善と汚染の予防に努めます。
- III. 事業活動全般における環境負荷を削減するために次の活動に取り組めます。
 1. 二酸化炭素排出量の削減（電力・都市ガス使用量削減及び燃費の向上）
 2. 廃棄物排出量削減（産廃・一廃排出量削減）
 3. 紙資源の節約（コピー用紙使用量削減）
 4. 総排水量削減（上水使用量削減）
 5. 化学物質使用時の管理の徹底（化学物質管理の徹底）
 6. グリーン購入の推進
 7. 省エネ型小型船舶向けオートパイロットなど環境に配慮した製品の販売促進

この環境方針は全従業員に周知するとともに社会にも公開します。

2005年8月5日 制定

2017年3月17日 改定

マロール株式会社

代表取締役社長 兎田 朗彦

環境目標 (2017年度)

目標項目		単位	2017 目標
1	二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	2,800
	1.1 電力使用量の削減	kWh	570,800
	1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	13.08
	1.2 自動車燃料 (ガソリン/軽油 使用量)	リットル	30,000
	1.3 都市ガス使用量	m ³	44,096
2	廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	300
	2.1 一般廃棄物	kg	6,000
	2.2 産廃排出量	kg	43,000
3	上水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	11.00
	上水使用量	m ³	1,838
4	コピー用紙使用量の削減 (枚数)	枚	350,000
5	化学物質のチェックリスト管理	%	100
6	RoHS規制対応資材の購入率	%	100
7	環境配慮製品の販売率	%	95

拠点別目標		合計	本社	札幌	東京	福岡
電力使用量	kWh	570,800	562,400	2,100	-	6,300
自動車燃料 (燃費)	km/l	13.08	13.08	13.08	13.08	13.08
都市ガス使用量	m ³	44,096	44,000	96	-	-
上水使用量	m ³	1,838	1,731	80	-	27

東京営業所=電力、都市ガス、上水は賃貸(共同利用)のため集計不能。

福岡営業所=オール電化のためガスは不使用。

環境活動計画

計画項目	計画内容
1 二酸化炭素排出量の削減	
1.1 電力使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・節電活動の徹底 空調温度の調整、必要に応じたオンオフ 不要な照明の消灯 工場設備の不要電源を落とす デマンド装置の活用
1.2 自動車燃料使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・運転記録の記入、燃費計算の実施、エコ運転の推進など
1.3 都市ガス使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・春/秋の空調機器使用削減、空調温度の調整など
2 廃棄物排出量の削減	
2.1 一般廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底、リサイクルの促進など
2.2 産廃排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別の徹底、リサイクルの推進など
3 上水使用量の削減	
上水使用量	<ul style="list-style-type: none"> ・節水活動の継続推進、空調機器の定期点検など
4 コピー用紙使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・両面コピーの徹底、廃紙の再利用、PDFの利用促進など
5 化学物質の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・SDSの完備、保管・使用時のチェック、管理徹底など
6 RoHS規制対応資材の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・製品開発時に調達部材が対応品かチェックする、等
7 環境配慮製品の拡販	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減型製品(オートパイロット)への切替を進める

環境目標の実績、環境活動計画の取組結果とその評価、次年度取組内容

I. 二酸化炭素排出量削減

目標=2,800kg-CO₂/t 実績=2,961kg-CO₂/t 達成率=94% 前年比=8%改善

目標項目	単位	目標値	2015 実績	2016 実績	2017 実績	達成率
1 二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	2,800	2,731	3,214	2,961	94%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	467,000	431,762	464,836	440,436	106%
1.1 電力使用量の削減	kWh	570,800	524,435	564,659	532,771	107%
1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	13.08	13.45	13.02	13.25	101%
1.2 ガソリン/軽油 (使用量)	リットル	30,000	28,455	29,396	28,904	104%
1.3 都市ガス使用量	m ³	44,096	40,808	50,602	45,653	96%
製品生産量	ton		158.1	144.6	148.7	

電力事業者排出係数=0.518kg-CO₂/kWh 関西電力H28年度

取組結果とその評価

製品ton当たり二酸化炭素排出量は目標にあと一步届かなかったが、前年からは8%改善された。

1.1 電力使用量【目標達成率107%、前年比5%改善】

前年から使用量を5%削減し、目標もクリア出来た。節電取り組みの浸透と夏場の空調コストが低かったことが貢献したと思われる。

1.2 自動車燃料【目標達成率101%、前年比2%改善】

車種構成に変化は殆どないが、前年より改善することが出来た。担当者の燃費改善努力の結果と思われる。

1.3 都市ガス使用量【目標達成率96%、前年比10%改善】

空調機器での利用がメインの為、天候による変動が大きい。2017年度も前年同様に寒暖が厳しく、都市ガス使用量を10%削減したが、目標達成には及ばなかった。

次年度取組内容

取組の継続をさらに推進。更新時期を迎えた生産設備、空調、照明類の省エネ機器への更新を検討・実施。

II. 廃棄物排出量の削減

目標=300kg/t

実績=306.95kg/t

達成率=98%

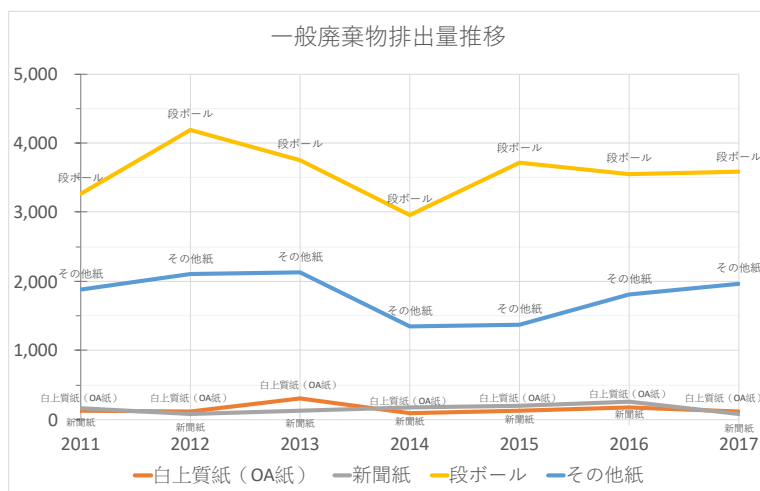
前年比=1%改善

目標項目	単位	目標値	2015 実績	2016 実績	2017 実績	達成率
2 廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	300.00	313.21	308.68	306.95	98%
廃棄物総排出量	Kg	49,000	49,512	44,639	45,643	107%
2.1 一般廃棄物	kg	6,000	5,410	5,800	5,740	104%
2.2 産廃排出量	kg	43,000	44,102	38,839	39,903	107%
金属くず (再生利用)	Kg	18,000	17,892	16,118	16,423	109%
その他 (業者委託)	Kg	25,000	26,210	22,721	23,480	106%
製品生産量	ton		158.1	144.6	148.7	

取組結果とその評価

総排出量の目標達成出来たが、製品ton当たりでは目標に届かなかった。

2.1 一般廃棄物【目標達成率104%、前年比1%改善】



昨年度とほぼ同等の傾向

2.2 産業廃棄物【目標達成率107%、前年比3%増加】

再生利用：加工工程で発生する金属くず。目標クリアしたが、生産量増に比例して前年より2%増加。

業者委託：切削油などの廃油が主。目標クリアしたが、生産量増に比例して前年より2%増加。

次年度取組内容

2018年度も同様の取り組みを継続します。

III. 上水使用量の削減

目標=11.00m³/t

実績=12.16m³/t

達成率=89%

前年比=8%改善

目標項目	単位	目標値	2015 実績	2016 実績	2017 実績	達成率
3 上水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	11.00	10.67	13.20	12.16	89%
上水使用量	m ³	1,838	1,686	1,908	1,808	102%
製品生産量	ton		158.1	144.6	148.7	

取組結果とその評価

空調装置での使用が殆ど。前年比5%削減出来たが、製品ton当たり目標には届かなかった。

次年度取組内容

継続的な取組と、空調機器のメンテナンスなど同様の取組で活動を継続します。

IV. コピー用紙使用量の削減

目標=350,000枚

実績=313,250枚

達成率=111%

前年比=5%改善

目標項目	単位	目標値	2015 実績	2016 実績	2017 実績	達成率
4 コピー用紙使用枚数 (A4換算)	枚	350,000	343,875	331,125	313,250	111%

取組結果とその評価

目標・前年比共にクリアすることが出来た。両面コピーの活用などの活動浸透している。

次年度取組内容

2018年度は目標値を350,000枚から330,000枚に変更する。

V. 化学物質の管理100%達成

取組結果とその評価

・SDSの完備、・特定化学物質の使用量集計（3ヶ月毎、約40品目）、・排出基準を超えた場合の届け出、・塗料・溶剤・洗剤の購入・使用・管理に関する下記5ポイント。

- I. 危険物倉庫に保管、適正量を小出しする。
- II. 当用買い、不要なストックをしない。
- III. 塗料・溶剤等の缶は必ずフタをする。
- IV. 塗料・溶剤は使い切る。
- V. 廃缶は所定の場所に保管する。

チェックリストを用いた毎日の管理、月1回の安全パトロールなどを通して、化学物質の100%管理を確認することが出来ました。

次年度取組内容

2018年度も同様の取組を継続します。

VI. RoHS規制対応資材の購入100%達成

取組結果とその評価

RoHS規制対応を要求された製品、および規制対象の新規開発品にはRoHS規制対応資材を用いること。今年度は新規製品がありませんでした。既存製品に関しては100%適応が継続されています。

次年度取組内容

2018年度も同様の取組を継続します。

VII. 環境配慮製品の拡販

目標項目	単位	目標	2015実績	2016実績	2017実績	達成率
7 環境配慮製品の拡販	%	95%	98%	96%	99%	104%

取組

小型船舶の操舵を自動化するオートパイロット装置において、潮流や風の影響による悪影響を軽減するマロール独自のエコモード搭載機種（特許申請中）の販売比率を95%以上に高める。

結果

製品	販売台数	比率
オートパイロット販売総数	722	100%
エコモード搭載機種	713	98.8%
エコモード非搭載機種	9	1.2%

特殊用途向け以外はエコモード搭載機種に製品移行することが出来た。

次年度の取組内容

省エネに貢献するエコモード搭載機器の拡販に加え、小型船舶の航行時や釣時などにおける省エネや負担軽減する商品を拡充。さらにエンジンや各種推進装置と航法機器をネットワークを活用し連携制御する技術開発を進めます。

*小型船舶の操舵をより高機能・容易にする製品

サイドスラスタ 制御システム ATz-300



船首・船尾などに設置し、横方向の推進力を発生させるサイドスラスタの自動制御システム。船首方位を設定した方向に自動制御することで、簡単/効率的な操船や船釣りが行えます。

ジョイスティック 操船リモコン



ノリ養殖などの狭いスペースで細かい操船を行うのに必要な各種操船装置を小型コントローラーに一体化したりリモコン装置。複雑な操船作業の容易化に貢献します。

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

I. 適用される主な環境関連法規制等

適用される主な法規	主な適用事項	遵守評価
振動規制法	・特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・規制基準以下の遵守	遵守
騒音規制法	・特定施設の設置、変更の事前届け出	遵守
	・規制基準以下の遵守	遵守
兵庫県条例大気汚染防止に関する条例	・特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
水質汚濁防止法	・特定施設設置、変更、廃止等事前届け出	遵守
廃棄物処理法	・一般廃棄物、産業廃棄物の運搬または処分を許可業者に委託する。	遵守
	・マニフェストの交付と回収	遵守
	・マニフェスト写しを5年間保存する。	遵守
	・産業廃棄物管理票交付状況報告を提出	遵守
PRTR法	・特定化学物質の排出量移動量の把握と記録、基準値以上の取扱量の場合行政に報告	遵守
有機溶剤中毒予防規則	・作業主任者の選任	遵守
	・局所排気装置の自主点検	遵守
	・保護具の着用、半年に1度の健康診断	遵守
消防法	・屋内貯蔵所の届け出	遵守
	・少量危険物貯蔵所の届け出	遵守
	・消防設備等点検結果報告（3年に1度）	遵守
エネルギー使用の合理化に関する法律	・熱、電気を合算した使用量が一定以上になれば届け出 指定工場・事業所となる。	遵守
自動車リサイクル法	・使用済み自動車の適正処理	遵守
フロン排出抑制法	・空調機器の3ヶ月に1度の簡易点検(H27.4施行) ・使用済み業務用エアコンの適正処理 ・地方自治体の条例の適用	遵守

II. 法令違反、訴訟等の有無

- ・当社に於いて定期的を実施する上記遵守評価の結果、環境関連法規等への違反はありませんでした。
- ・尚、関係当局からの違反の指摘は過去3年間ありません。

代表者による全体評価と見直しの結果

I. 全体評価

2017年度は主に冬期の空調使用量が多かったため、ガスの使用量が増加し目標未達となりました。

その他の目標項目は全て目標達成することが出来ました。しかし製品tonあたりでは、二酸化炭素・廃棄物・上水が目標以下の結果となりました。

未達要因としては、製品構成比率が非常に重い油圧機器から、軽量の電子機器に移行していることが考えられます。

II. 見直しの結果

製品構成の変化に伴い、tonあたり目標は2018年度より修正します。

その他の目標は基本的に現状維持とします。

2018年度目標

目標項目		単位	2018 目標	2019 目標	2020 目標
1	二酸化炭素排出量の削減 (製品ton当たり)	kg-CO ₂ /t	3,000	3,000	3,000
	1.1 電力使用量の削減	kWh	540,000	540,000	540,000
	1.2 自動車燃料 (燃費)	km/l	13.10	13.10	13.10
	1.2 自動車燃料 (ガソリン/軽油 使用量)	リットル	29,000	29,000	29,000
	1.3 都市ガス使用量	m ³	45,000	45,000	45,000
2	廃棄物排出量の削減 (製品ton当たり)	kg/t	310	310	310
	2.1 一般廃棄物	kg	5,800	5,800	5,800
	2.2 産廃排出量	kg	40,000	40,000	40,000
3	上水使用量の削減 (製品ton当たり)	m ³ /t	12.30	12.30	12.30
	上水使用量	m ³	1,850	1,850	1,850
4	コピー用紙使用量の削減 (枚数)	枚	330,000	330,000	330,000
5	化学物質のチェックリスト管理	%	100	100	100
6	RoHS規制対応資材の購入率	%	100	100	100
7	環境配慮製品の販売率	%	100	100	100

2018年度環境レポート発行

2019年8月予定



マロール株式会社

〒653-0037
神戸市長田区大橋町2丁目1番34号
tel : 078-611-2158
fax : 078-641-5856

<http://www.marol.co.jp>